

平成 21 年 10 月 17 日

中斎塾 秋季合同フォーラム

於：足利まちなか遊学館

知足と陽明学

みなさんこんにちは。

眠気ざましに、少し声を出しましょう。論語の素読を一つ致しましょう。

「子曰く、利に放りて行なえば、怨多し」

私の大好きな言葉です。

素読の時に、科白を覚えたら第一段階は合格です。中の段階は、自分で意味が分かって人さまにも説明が出来る。更に、上の段階になりますと、イメージが湧く。目の前の利につられてパクッと食いつくと、後でとんでもない厄介事が起きる。自分の過去を振り返ってみれば、何かしら浮かぶと思います。それをイメージできたら、上の段階です。是非、上の段階を目指して、皆さんで素読をしましょう。

(素読)「子曰く、利に放りて行なえば、怨多し」

感謝と熱中

先ほど大前先生の講話の中で、アラジンの魔法のランプの一つに、良い気持ちで寝ると身体の機能を向上させるとありまして、非常に良いと思いました。

昨日寝る時に、一日嘘をつかなかったなと思って眠れた方、手を挙げて下さい。

(・・・沢山手が挙がる)

嘘は泥棒の始まりと申しますから、嘘をつかない人生が良いと思います。何かちょっと嘘をつく、心に棘が刺さって残ります。それがチクチク刺さると病気になるのですね。

寝る時に、今日は良い日だったなと思って眠れた方は手を挙げて下さい。

(・・・多少、減る)

もう一つ質問します。

昨日一日、有難うと言い、人さまから有難うと言われた方は手を挙げて下さい。

(・・・沢山手が挙がる)

先ほど挨拶をされた塚越代表幹事は、奥様に対して、「おはよう」という言葉と同じように「有難う」が自然に出るようになったそうです。言おうと思って言うのではなくて、

日頃から「有難う」という言葉をずっと出す。いつも「有難う」と言っていると、相手からも「有難う」と言ってもらっているのでしょうね。素晴らしいですね。私は「有難う」を沢山言いますが、相手から「有難う」と返ってくるのは非常に少ないので、それが課題だと思っています。

大前先生のお話「病気のほんとうの原因」の中で、「何か熱中するものがあれば良い」と言われた事が、非常に良いと思いました。

これも皆さんにお聞きしたいのですが、何か熱中できるものを持っている方はおられますか？

熱中できるものがなければ、何か作るとよろしいですね。私は還暦を迎える時に、70歳、80歳、90歳になっても何か熱中できるものがないだろうか、誰にも迷惑をかけず熱中するものを持ちたいとっていて、詩吟に出会いました。私の詩吟の先生は、97歳です。残念ながら今は脳梗塞で療養中ですが、96歳まで現役で全国のお弟子さんを指導されておられました。詩吟を見つけて良かったと思っています。今、熱中してやっております。

では、本日の本題「知足と陽明学」に入ります。

一．陽明学とは

私は陽明学に出会った時に、もの凄く嬉しかった。私は、世の中がどうもおかしい、カネ・カネ・カネという考え方は間違っていると思っていました。

今日も政治家の方がおられますが、私は政治家の方にお会いすると、「舌は何枚ありますか」とお聞きしています。政治家の方はどうも、嘘について当たり前という意識をお持ちのように感じます。世の中をみていると、嘘について当たり前、子供が親を殺し、親が子供を殺す、それをあまり気にしない風潮になっていると感じます。仕事をするにしても、例えば私の警備会社で県の仕事を入札するような場合、仕事を出す側は、中身をよく分からないで値段だけ削っています。もうすこし中身を理解して仕事を出せばよいのになと思います。逆に、仕事をお願いする場合、『警備保障のすべて』にも書きましたが、良い警備会社を選ぶ基準として、見積りを貰ったら思い切って値切ってみる事です。即座に応じて値段が下がるようなら、最初から値段を乗っけているのですから、その警備会社は信用できません。最初から見積りに二枚舌を使うような会社は、信用できないということです。

周りを見ても、嘘についてもそんなにおかしくない社会になっている。これはおかしい。私がおかしいのか、それとも世間がおかしいのか・・・そう思っていましたら、陽明学の

中に「自分の信ずることを正しいと思いなさい。正しいと思ったら、それを行動せよ」とありました。これだと感じました。

「致良知」という言葉があります。良知を致す。良知を磨く・良知を究めるという意味です。先ほど、後藤県議が挨拶の中で、「正しいと思うことを行なう」という話をされました。心の中で我々は常に、正しいと思う判断基準が欲しいと思っているのではないのでしょうか。例えば、誰かに頼まれ事や願い事をされた時、義理や欲に縛られると思いますが、自分の心の中に判断基準があれば、NOならNO、YESならYESと言えます。

陽明学には、＜自分が正しいと思うことを実行すればよい。それが受け入れられない時は、社会が悪い。そう言ってよい＞という内容のものがございましたので、陽明学は良いなと思いました。陽明学は、＜自分が正しいと信ずる事をやってよい＞ということを裏付けてくれる学問です。

陽明学は行動を重視します。「知行合一」と言います。「知るは行なうの始めにして、行なうは知るの成れるがなり」と申します。「知っている」と言ったなら、それなりに行動しておかなければいけません。何もしないで、「知っている」とは言えません。

もう一つ、陽明学の教えに「事上磨錬」がございます。私が教えて戴いた先生で、二松学舎大学の学長兼理事長をされた浦野匡彦という先生がおられました。その先生に、「君は事上磨錬を地でゆく人間だ」と言われました。事上磨錬とは、座って学問をするだけではなくて、現実世の中に出て仕事をして、仕事の中で揉まれて自分を磨いていくことです。先生にそう言われて、自分で腑に落ちたのはそれから5、6年経ってからでした。仕事の中で自分を磨こうという意識を持っていると、知らず知らずの間に磨けると感じます。

王陽明について、安岡正篤先生が「主観を追求し続けると、徹底した客観に到達する。これ則ち陽明学である。王陽明はこの悟りを我がものとした」と言われています。分かりにくい表現ですが、はっきりしていることは、自分の心の奥深いところにある巨大なエネルギーを王陽明は活用したのだと解釈したところが良いと思います。

今日は大前先生もおられますので、王陽明の身体の具合について少しお話致します。王陽明は57歳で亡くなりました。本人が書き残したものによると、40歳を過ぎたら白髪が増えてきたこと、歯がグラグラして痛くなったこと、若い頃に馬から落ちて胸を痛めて、それが原因でずっと一生苦しんだこと等が残っています。

身体は苦しかったと思いますが、文才が非常にあるし、戦いに長けていました。戦争に出かけると、夜、自分のお弟子さん達を集めて陽明学の講義をする。翌朝、弟子達が集ま

ると、すでに総大将である王陽明は出陣していた。そういう動き方をしていたようです。ですから、まさに文武両道です。陽明学が日本に伝わってきた時に、文武両道で素晴らしいということで、中国より日本で陽明学は栄えたのだと思っています。

陽明学はもともと論語を勉強する中から生まれてきています。論語の勉強は儒学です。儒学は朱子学と陽明学を学ぶ糸口として現代にも伝わっています。私がお話をさせて戴く時には必ず、陽明学の考え方が根本にあって話をしています。朱子学はちょっと無理ですね。朱子学は椅子に座って、机の前で一所懸命考えて学問を教える形のもので、私はどうしても現場で動き回る方が好きなので、陽明学の方が合っています。

一．知足とは

知足の人生であれば、これはもう素晴らしい人生です。心穏やかで日々満足して生きている人が知足の人です。そういうものが現代にあるということを聞いて、私は昨年、ブータンに出かけて行きました。確かに長老はそういう生活をしていますし、知足の精神構造にあるなと感じました。しかし残念なことに、テレビの影響で物欲が国中に広がってどんどん汚染されつつあるとも感じました。

知足を自分のものにするためには、非常に単純なことです。「有難うございます」「おかげさまで」という言葉がずっと言えるようになれば、知足の人生を歩んでいるとって間違いないと思います。但し、そこに私利私欲が沢山あったなら、知足ではありません。正しいと思うことを実行しながら「有難うございます」「おかげさまで」が言えるようになると、知足の人生と言えます。

知足の心とは、「ああ、良かったな」「満足したな」という気持ちが、夜寝る時にあるかどうかです。私は夜寝る前に、次の5つの項目を確認して満足してから眠ります。

今日は嘘をつかなかったな・・・(つかなかった。良かった)

今日は良い日だったな・・・(良かった)

「有難う」と言い「有難う」と言われたかな・・・(良かった)

今日は運動をしたかな・・・してないと思うと、寝床で少し運動をしてから眠ります。

明日は、この5つが全部出来てよかったな・・・分かりづらいかもかもしれませんが、明日のことを過去形で振り返って寝るようにするのです。明日一日をざっと考えて、全てうまくいったと思って眠るのです。これは先ほどの大前先生のアラジンのランプの話に適合していますので、先生のお話をお聞きしていて、嬉しくなり安心しました。

眠る時に、良かったなと満足して眠ると、マイナスの波動は来ません。プラスばかりです。ですから翌日爽やかで良い日になります。足るを知る人生は、そういうものだと思います。

ます。

足るを知る人生が良いということを全世界に向けて言えるのは、やはり日本人だと思います。日本人がそういうことを考えて実行しているのは、狩猟民族と農耕民族との違いだと思います。社会に向かって、そして世界に向かって知足という考え方を広げていくというのは、非常に良いことだと思います。各国でも、同じように「足るを知る」「満足」という考え方を持っている人達や実践している団体があると思うので、そういう人達と手を繋ぎあって、知足の社会を作り上げていければ良いと考えています。

一．現代を考える 民主党政権

現代というと、どうしても非常に現実的な話になります。政権が交代し、自民党が野党になりました。自民党が4年後に復活するかどうかは、日本がどういう国になればよいか・日本の未来はこうあるべきだ、という理想像を明確に示せるかどうかです。それが示せれば、自民党は復活できると思います。日本のあるべき姿・理想の国家像を、自民党は今まで出してきました。目先のものばかりで過ごしてきましたから、ここで反省して、長期目標が言えるようになれば自民党は変わるだろうと思っています。

一転して民主党ですが、今は俗に言うハネムーン期間ですから、問題が起きてもそれほど叩かれません。私が今、楽しみにテレビや新聞を見ているのは、菅副総理の動きと長妻大臣、亀井大臣、おまけが福島大臣です。

福島さんと仙谷さんのやり取りは面白いですね。ボスと部下という元々の関係があるわけですから、そこらへんも面白いと思います。

菅さんの場合は、言動が目立ちません。菅さんは副総理ですから、万が一、鳩山首相が亡くなったり、失態を犯して総理大臣を降りたなら、自動的に総理大臣が転がり込んできます。ですから余計な事は言いたくないでしょう。雇用問題等、担当のことだけでやっていれば良いというような腹がある気がします。マスコミに出ないように、出ないようにしているような感じがします。ですから菅さんの言動を伝えたものは気にして見えています。

長妻さんの場合は、舛添さんの官僚の人脈を引き継いでどんどん進めているようですが、官僚の中でのあだ名が、「ミスター年金」から「ミスター検討中」に変わったという記事が出ていました。やはり与党側になると、そのあたりが難しいだろうと思います。ただ、長妻さんは自分から手を挙げました。厚生労働大臣は最初は仙谷さんに決まっていたのを、鳩山さんに直談判して、めでたく就任となりました。民主党の中で、ゴネ得だと言われているそうですが、自分のなりたいポストになったのですし、舛添さんの人脈も引き継いだ

のですから、これは相当なことをしてくれるのではないかと楽しみに見えています。「ミスター検討中」となると、ちょっと弱いなと感じますが、年内いっぱいハネムーンの間は、大人しく見ていようと思っています。

亀井大臣の金融モラトリアム法案については、とんでもない話だと思っています。最初は、元利ともに猶予するという話でした。これは言い方を変えれば、元利ともに踏み倒すということです。借金をしておいて、元金も利息も返さないという事になるとデフォルトです。日本はデフォルトが堂々と認められている国である、と世界に示す事になるので、国際的に見て日本の信用はがた落ちになります。これは大変な事だと思っていたら、元金は猶予するけれども利息は払うという内容に切り替わったので、これならまだ国際的に話は進められると思いました。貸し渋り・貸し剥し法案の中に、無理やりモラトリアムを取り込んだような感じがしていますが、亀井さんの言動は注目に値すると思っていますので、そこらへんは非常に気にしています。特に政務三役の動きが面白いと思っています。

世の中を牽引するのは、やはり政治家の方の動きによって変わるなど、この一ヶ月間、特に感じました。政を司る人が滅私奉公で、我が身を捨てて難局にぶつかっていくかどうか。そして大きな理想（目の前の小手先のものでなく、50年100年の体系）を持って、ぶつかってゆくかどうか。ここら辺がポイントだろうと思っています。

しかしながら、衆議院議員に当選をしてたった2日間の在籍で、1か月分の給料を貰って平然としている政治家というのは、政治家という名前に値するのと感じます。誰も返上したという話は聞きません。民間ではあり得ません。そういう人物が、何で、政を司るという重要で重大なポストに就いているのでしょうか。このことから日本の病根が推測できると思っています。

現代を考える 新型インフルエンザ

現代を考える上でもう一つ気になっていることは、危機管理の問題で、新型インフルエンザです。日本のマスコミは「新型インフルエンザ」という言い方をします。でも、他の国々は「豚インフルエンザ」と呼んでいるようです。当初は、新型インフルエンザに対して日本の政府の発表は、64万人が死ぬだろうと発表していました。アメリカやオーストラリアの研究機関では、200万から240万人の日本人が死亡するだろうと予測しています。今は、それにゼロが一桁足されるだろうと私は思っています。1000万、2000万の単位で死ぬだろうと思っています。

今朝の新聞には、13歳以上の子供はワクチン1回接種と出ていました。もともとは2回接種だったと思います。アメリカではワクチン接種の回数を1回に減らして、タミフル

も沢山使わないようにしました。専門家の方の話をお聞きしましたところ、推測との前書きですが、「そろそろ鳥の新型インフルエンザの出番だ」と言っておられました。鳥の新型インフルエンザが発生した時の為に、今あるワクチンやタミフルを使わないで取って置くという動きが出ているのだと思います。

日本では現時点で、2700万人分のワクチンしか作れません。実際には5000万人分以上のワクチンが必要です。不足分を外国から輸入すると言っています。しかし現実になんかスイスイ入ってくるかどうか、又、副作用が伴うワクチンを輸入して、果たしてどうなのかなという疑問があります。ですから鳥の新型インフルエンザが本当に発生した時は、酷い場合は、ここにおられる方も半分は死んでしまうのではないかと考えています。

昨年、会員の田中さんがウィルス性の胃腸炎にかかって、3日間、スポーツドリンクだけを飲んで生きていたと話をしてくれました。水を飲んでも吐いてしまうので、何も食べられなかったそうですね。現実には、中国の奥地で子供さんが新型鳥インフルエンザにかかって、家族全員が死にました。専門家チームが調べたら、新型インフルエンザで死亡したのは子供さんだけで、残りの家族は飢え死にだったそうです。何を食べても吐いてしまうからです。ですから鳥の新型インフルエンザが発生した時には、生きたいと思う人はスポーツドリンクを用意しておくとうるしいでしょう。

現代を考える時には、政を司る部分、それから危機管理の危機を見ておく必要があります。更に、弱り目に祟り目と言います。過去の歴史をみると、大地震が起きる時、政権が大きく交代する時、経済的な大変動が来た時、こういったものがだいたいづつかっています。経済的におかしい時には、何か災害も起きるような気がします。

何度もお話していますが、経済的に今年は悪いです。来年も悪い。再来年の後半には、急転直下で経済は落ちます。再来年の後半は要注意です。経済大変動があった時には、一変に起こるかどうかわかりませんが、電気は来ないでしょうし、ガスも使えない、油も当然なくなるでしょう。そういう国に日本はなると考えています。ですから自給自足が必要です。江戸時代の後半の日本は、非常に理想的な自給自足体制を布いていましたから、参考にする必要があると思っています。

一．陽明学を現代に活かす・知足を現代に活かす

私は鉄砲洲神社というところで詩吟を教わっています。鉄砲洲神社の入り口に額があって、「威張るな・欲張るな・妬むな・怒るな」と書いてあります。入る時に、いつも瞬間

的に考えます。特に、怒るなという文字を、私は時々瞬間沸騰しますから、まだまだ肚ができていないと思いつつ眺めます。ただ、こういうものを日頃見続けていると、だんだんそれが身についてきますので、これは良い言葉だと思っています。「威張るな・欲張るな・妬むな・怒るな」・・・これが陽明学を現代に活かし、知足を現代に活かす大きな要素ではないかと考えています。

こういう勉強をしていくと、知らず知らずの間に身につくものがあります。意識的に勉強しようと思う時には、コロッと忘れる場合がありますが、知らず知らずのうちに入るものは違います。先ほど今井理事が開会の挨拶で「本日は、ご多用のところ・・・」と言われました。耳に止まった方もいらっしやると思います。だいたい「お忙しいところ・・・」と挨拶する方が多い。「忙」という言葉は、「もうあの世が近いから」という意味が言外に込められていますので、使わない方がよろしいでしょう。これについては、安岡正篤先生の色々な本に、詳しく細かく書いてあります。今井理事は学びが非常に深くなって来ますから、自然と「ご多用のところ」と出てくるのでしょうか。無意識のうちに出てくる、知らず知らずの間に身につくものが良いと思っています。

先ほどの大前先生のお話の中で、「生きがい・目標を持つことが健康長寿の秘訣だ」とありました。今、私が持っている目標は、陽明学の本を10冊出版したいと決めています。今、3冊目に挑戦しています。山田方谷の「擬対策」を執筆中です。先日、取材を兼ねて山田方谷の墓参に岡山県高梁市へ行きました。その次は、河井継之助を書こうと思っています。次いで三島中洲、渋澤栄一、中江藤樹・・・最後に西郷隆盛を書こうと思っています。そういう気持ちを持っていると楽しみです。陽明学シリーズ10冊を書き上げたところで、出版記念パーティーを開きたいと思っています。記念パーティーで皆さんに来て戴いて、万雷の拍手で迎えられることを想像して眠ると、非常に気持ちが良いです。更に、来ると良いのではなく、来るに決まっていると思って、出来たと過去形で想像して眠る。これは心身に非常に良い事だと思っています。

それが知足で現代を生きるということにつながり、それを支えているものが陽明学です。陽明学を学んでいくと、実行しなければいけません。「知行合一」ですから、考えたことは実行する。知っているということは実行する。全部、体験した事の裏付けがあって、今、自分があるのだなと思っています。どこかで何度も体験のし直しをしたいと思います。それが本日の「知足と陽明学」の結論になります。

ちょうど時間でございます。ご清聴有難うございました。